平成22年度第3回市民企画事業補助金審査委員会 会議録

- 1 日 時 平成23年2月23日(水)14:00~18:00
- 2 場 所 クリエイトホール 第5学習室
- 3 出席者 委 員：和田委員長、前野副委員長、檜原委員、甘利委員、岡本委員
事務局：松日楽協働推進課長、島村主査、山口主事
- 4 会議当日資料配布
(1)資料1 平成23年度市民企画事業補助金 審査結果 一覧表(得点順・受付番号順)
(2)資料2 平成23年度市民企画事業補助金 審査結果 事業別個表
(3)資料3 平成23年度補助対象事業採択について(案)
- 5 議事進行
(1)開会(島村主査)
(2)事務局挨拶(松日楽協働推進課長)
(3)配布資料の確認(山口主事)
(4)平成23年度申込事業の最終選考審査(審査委員会)

この後、活動支援部門、次に事業実施部門について獲得点数の高い順から審査を行った。

6 個別審査内容

(1)活動支援部門

A- -1 幼少児童との「防火ふれあい会」

B 委 員：防火の啓発は大切だが、消防署等だけでは手のまわらない部分もある。こういった活動は必要だ。

D 委 員：異議なし。

委 員 長：ほか、特段異議が無ければ採択とする。

A-新-2 ぶれいみゅーじっくな活動をわかりやすく広報するために

B 委 員：活動支援部門の主旨に沿った事業であるかわからなかった。

E 委 員：広報のためのDVD作成であり、特段問題ないと考えられる。

委 員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ、採択する。

A- -2 滝山森のようちえん

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択する。

A-新-1 DV被害者や女性であるが故の問題を抱える女性の支援

D 委員：事業内容について、プライバシーに関わる非常に繊細な部分であるので、その点については事業実施する上で十分配慮していただきたい。

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし採択するが、極めて個人的な情報を扱うため、利用者の方のプライバシーについて、十分配慮するよう要望する。

A-新-9 子育てママのための学び場<一歩踏み出して未来の私につながろう>

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択する。

A- -3 わら細工文化と技術の伝承

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択する。

A- -4 在宅医療を主題とする活動の普及事業

委員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、特に異論が無ければ、採択する。

A- -6 楽しい介護予防の音楽セミナー

D 委員：事業目的・内容について異論は無いが、担当部面接の議事録にある通り、平成22年度実績は、既に会員である方の参加が大部分を占めており、これについては広報活動など、改善の努力が必要と考える。

B 委員：同意。本補助金は団体の内部的な活動についての補助ではない。

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし採択するが、活動支援部門の主旨に鑑み、既に会員である方ではなく、新規参加者の方を多く得られるよう広報活動などの工夫を要望する。

A-新-3 あなたが行動するための「認知症講座」

A 委員：謝礼金額が高いのではないかと。

B 委員：謝礼には講師への謝礼と、講座学習記録が含まれている。講座内容を記録するのであれば、著作権に配慮する必要があると考える。

D 委員：また、こういった活動をしている団体は他にも存在している。活動を効果的にするためには他団体との連携も視野に入れてほしい。

委員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択するが、講座を記録したものについては、その著作権に配慮すること、また、活動を効果的なものにするため、高齢者福祉に関する他団体との連携を模索するよう要望する。

A- -5 親子で楽しむ陶芸教室

- A 委員：活動を紹介するための経費というより、事業実施の側面のほうが強くなっていないか。
- D 委員：担当部面接の議事録によれば、今年度の実績として 18 組の参加者があるが、約半分が既に会員の方の参加となっている。
- B 委員：複数年度の事業計画を見ると、規模を拡大する気がないのだろうか。
- E 委員：本事業の目的である障がい者支援を着実にを行うためには、むやみに規模を拡大して実施するよりも、手厚いフォローをしながら継続して実施していく事に意義があると思う。
- D 委員：同意。規模については急に拡大する必要はないかもしれないが、ただ、本団体は今回で 2 年目の補助でもあり、活動支援部門の主旨を考えれば新たな方に知ってもらい、参加してもらう事は大切。そのために、他の関連団体への声掛けをしてはどうか。

委員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択するが、新規の参加者を得るため、関連団体との連携を模索するよう要望します。

A-新-5 わくわくキッズ料理教室

- B 委員：昨年度の会計報告において、会計監査をされている方が今年度会計担当者になっている点が気になった。もし今年度会計担当の方が監査も担当するのであれば問題ではないか。また、料理教室はサタデースクール等でも既にやられている。
- D 委員：既存の事業との差別化が大切。
- E 委員：食育の啓発はまだまだ足りていないのではと感じており、いろいろな活動があったほうが良い。ただ、固まって活動をするだけでなく、例えば地域の料理教室に講師として出ていくとか、外との連携は必要だと考える。

委員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択するが、会計担当者と会計監査の担当者が兼務とならない事を条件とする。また、効果的な事業実施のため、地域や関連団体との連携を模索するよう要望する。

A-新-10 八王子の農業活性化と名産作り

- B 委員：名産作りはいいが、八王子うどんにどのような特徴があるのか書類から読

み取れない。

C 委員：八王子の素材を使っていれば八王子名産物としても良いのではないか。名産が出来れば八王子にとってプラスであるのは確か。

委員長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択する。

A-新-7 子供たちのための学習支援

B 委員：巷の学習塾と同じではないのか。また、子供の居場所づくりという目的であればサタデースクールなどでも既に行っている。

D 委員：組織基盤を考えるとこの事業内容では運営体制にもやや不安がある。

委員長：運営体制にやや不安がある事から事業の継続性などに懸念があるため、不採択とします。

A-新-8 炭展示会

B 委員：趣味の世界の話ではないか。

E 委員：炭は環境教育においては大切なもの。個人的には育ててみたいと考える。

B 委員：また、自分の活動場所で事業を行う事を考えているのみで、あまり外に出でいこうという感じが読み取れない。環境市民会議など他団体を巻き込めば外へのアピール力が大分違ってくると考える。

D 委員：もっと外に向けての活動の広がりがあれば良いのだが。

委員長：補助金交付の可否について過半数が可としているものの、事業計画・効果に疑問がある事から、不採択とします。現在の活動場所にとらわれず、広く外部との関わりの中での事業実施など、計画を再考した上で、またの応募を期待します。

A-新-4 八王子地域美化活動事業

B 委員：清掃活動は大切な活動。しかし、市内の各町会やこども会、老人会、環境市民会議や美しい八王子を作る会など既に行っている団体が数多くある。事業を効果的に行うために、個別ではなく地域一体となってやってほしい。

委員長：事業目的については理解できますが、清掃活動については既に多くの団体で行われており、団体独自の事業としてよりも、他団体と連携した上での事業実施が期待されるため、不採択とします。今後、他団体との連携を踏まえた上で、またの応募を期待します。

A-新-6 国際交流・日本語学習

D 委員：類似団体が他にもある。また、既存事業との差別化に乏しい。

委員長：既存事業との差別化に乏しいため、不採択とします。

A-新-11 八王子遊びの学校

B 委員：担当部面接の議事録などから、団体が存立している事の認定にも疑問がある。また、事業計画も曖昧。

委員 長：組織としての継続性に疑問が残ること、事業の計画性に欠ける事から、不採択とします。

	活動支援部門	審査結果
	採択：12事業	不採択：5事業
【採択】	A-新-1、A-新-2、A-新-3、A-新-5、A-新-9、A-新-10、A- -1、A- -2、A- -3、A- -4、A- -5、A- -6	

(2) B 事業実施部門

B- -2 デイジー図書の作製

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択する。

B- -1 地球冒険学校交流セミナー

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択する。

B- -6 里親制度を正しく知ってもらうための活動

B 委員：団体の収支決算書が何故別団体の名前になっているのだろうか。

事務局：この点については団体へヒアリングを行いました。収支決算書にある団体名「みどり支部」は八王子市を含めた複数の市で活動を行っている団体であり、その中で八王子市を担っているのは本事業の応募団体である「ほいっぷ八王子」であるとの事です。「みどり支部」の収支決算のうち、八王子市単独分と、共通部分を各々の規模で割ったものを足し合わせたものが「みどり支部」の八王子市分の決算、イコールで「ほいっぷ八王子」の決算との事です。

B 委員：これは穿った言い方をすれば「二枚看板」の状態であり、補助金交付団体としては好ましい状態ではない。改善を求める。

D 委員：今回の応募書類から、ほいっぷ八王子として決算書を作る必要があるのではないか。

委員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択するが、団体運営について、決算書を別団体名で作成されている事は改める必要がある。「ほいっぷ八王子」としての決算報告書を作成し、再提出する事を条件に採択します。

B-新-5 高齢者向け出張箱庭体験事業

B 委員：事業内容については評価したいが、今後の事を考えると是非受益者負担の考えを取り入れて行って欲しい。

D 委員：異議なし。

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択するが、今後の事業継続を考え、受益者負担についての検討を要望します。

B- -5 八王子現代家具工芸学校

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択する。

B-新-1 浅川流域の野鳥保護に関する啓発事業

B 委員：補助金がついている事業だからといって、全て無料で配布するというのは如何なものか。かるたは受益者負担の考えを取り入れるべきではないか。昨年度もかるたを作る事業があったと記憶しているが、やはり販売しての配布であった。幾ら良いことをしていても、受益者負担の考えを取り入れていかなければ、続かない。

D 委員：事業収入について、再検討を求める。

B 委員：かるたについて、公的機関への配布を除いたものについては販売収入を見込む事を条件としてはどうか。

E 委員：売れるものを作らなければ、と考えると製作費が急激に上がってしまう事が懸念される。当日値段をつけてみるくらいなら良いと思うのだが、販売品として立派なものをつくれ、という訳ではない事は説明の必要があると思う。

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択するが、かるたに関しては公的機関への配布を除き、販売収入を見込む事を条件とします。ただし、販売品として立派なものを作ってくださいという訳ではないという旨については事務局から団体へ説明してください。

B- -2 大人の女性のゼミ～私らしくあるためのヒントがいっぱい 夢を実現する とっておきスペシャルプログラム～

委員 長：補助金交付の可否について全員が可とした事から、特に問題無しとし、採択する。

B-新-9 豊かなつながり『まめっこ流』子育て

B 委員：この団体は既に何度も補助金を受けてきた経緯もあり、確かに事業計画の水準は高い。だが、決算書から見てとれる団体の規模やその力から見ても既に補助金を受ける段階にないと考える。更に言えば、この応募内容は団体の本来事業であり、その事業費に補助金を利用したいだけではないのか。

C 委員：事業目的には共感できた。

B 委員：また、今回は新規での応募となっているが、担当部面接の議事録に過去の補助事業と類似しているとある。過年度補助事業について改めて確認したい。

事務局：(過年度補助事業について、成果報告書を基に説明。)

B 委員：やはり、平成 18 年度補助金事業として行った「JOYCCOちびっこ倶楽部」と大差ないように感じる。採択するにしても本来であれば継続として扱うのが望ましい。このままでは名前を変えて何度でも応募され続ける事になる。

E 委員：過年度に補助歴のある団体から新規扱いでの申込みがあった場合には、受付の時点で過年度事業と照合し、新規・継続事業どちらの扱いになるか事務局で精査すべきではないか。来年度以降、同じような事業にも関わらず新規で申込みされても、それは新規では受けられないと。

B 委員：受付の段階での精査が大切。

委員長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択するが、今後、過年度に補助歴のある団体から新規扱いでの申込みがあった場合には、新規か継続かの判断など、その内容について事務局で精査した上で、審査にかけよう対応してください。

事務局：対応します。

B- -3 音楽療法による教育・子育て・地域支援事業2011

D 委員：担当部面接の議事録によれば平成 22 年度事業の参加者平均が 5 ~ 6 名という事であるが、かなり少なく感じる。事業そのものの運営は大丈夫なのか。

事務局：(当団体の平成 22 年度事業について、参加者が思うように集まらず、当初予定からイベントの数を減らす変更申請を受けた旨を説明。)

D 委員：参加者獲得のため、広報活動の努力が求められる。

委員長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択するが、平成 22 年度事業の実績で参加者が少ないのが気になる。より多くの方に参加してもらうため、広報活動の工夫を要望します。

B- -4 いきいきわくわく計算大会

B 委員：事業継続のためにはやはり受益者負担の考えが必要である。この事業は参加費徴収は予定されているものの、実質弁当代としての徴収であり、参加費をもう少し増額した方が良いのではないかと。また、会議録によれば、せっかく申込みをされた参加者をお断りしたとの事である。これは会場を商工会議所の会議室にこだわっているからではないか。参加者を断るほど人が集まるのであれば、今後はより広い会場を確保し、受け入れ体制を整えるべきではないか。事業継続のため、参加費の増額と、会場の選定についても検討を要望したい。

委員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択するが、事業継続のため、参加費の増額と参加者の受け入れ態勢確保のため、会場選定の検討を要望します。

B-新-7 体験ものづくり応援隊

B 委員：この団体も過年度事業実施部門において補助金を新規扱いで2件出しているが、過年度補助事業について確認したい。

事務局：(過年度補助事業について、成果報告書を基に説明。)

B 委員：この事業についても、平成19年度補助事業と類似する点が散見される。先ほどの「豊かなつながり『まめっこ流』子育て」と同じく、受付の段階で新規か継続かについて精査が必要ではなかったか。

E 委員：本来的には継続扱いであった方が望ましい。

委員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択します。繰り返しになりますが、団体からの申込みについては受付段階で新規か継続かの判断など、その内容について事務局で精査した上で、審査にかけよう対応してください。

事務局：対応します。

B-新-10 親子ふれあい雪まつり

D 委員：この団体は平成20年度から22年度まで「親子ふれあいキャンプ」という事業で本補助金を受けていた。

A 委員：市と協働を目指しているようである。あと一回応援をしてあげたいという気持ちもある。

D 委員：親子ふれあいキャンプ」の補助が終わってしまったので、実施時期と場所だけ変えて新たに申請をしたものという印象を持った。本来的に同じ事業ではないか。

B 委員：同意。

D 委員：3回の補助事業で培ったノウハウを活かして、自主事業としての実施を期待したい。

委員 長：平成 20 年度から 22 年度までに補助を行った事業と実質的に変わらないものと判断したため、不採択とします。これまでに培ったノウハウを活かして事業を進めて行かれる事を期待します。

B - - 1 八王子陵南公園さくら祭り

B 委員：プレゼン、また、一連の審査を経た印象として、「姫桜そっくりさん」については計画性が欠けていると言わざるを得ない。プレゼンでの質疑によれば、既にそっくりさんの募集をしているが、全く集まっていないとの事である。

E 委員：「姫桜そっくりさん」の部分については計画性に欠けるという事で対象外経費としてはどうか。

委員 長：補助金交付の可否について過半数が可としており、獲得点数も高いため、他に特に異論が無ければ採択する。事業全体としては補助金交付の必要性を感じる所ですが、「姫桜そっくりさん」の企画についてはプレゼン等の審査を通じ、計画性に欠けるため補助対象にはそぐわないと判断しました。「姫桜そっくりさん」に掛かる部分を対象経費から外し、申請額から減額しての補助とします。

B - - 7 障害者ケアサポートプラン[精神障害者]

D 委員：テキストを作ることが大部分を占めているように見えて、個人的にはあまり良い印象を持たなかった。

B 委員：事業目的については十分理解できるのだが、補助金交付の必要性の可否をつけるにあたって、非常に迷った。

E 委員：事業計画書にも「昨年度収支は大幅な赤字を余儀なくされ…」とあり、また、団体の決算書を見てもその状況は見て取れる。事業継続は不能と判断します。

委員 長：事業目的そのものは十分理解できますが、団体の状況から事業継続は困難であると判断し、不採択とします。

B -新- 4 第 103 回八王子親と子のよい映画をみる会・上映会

E 委員：既に役割を終えた事業だと考える。今の子供が興味を示すか疑問。また、「良い映画」の概念が不明。

B 委員：35mm 映画にこだわる必要性がない。時代の流れもあり、他のメディアによる代替で十分対応できるはず。

委員 長：実施形態等、事業計画に改善の余地があると考えられるため、不採択とします。

B-新-2 子ども創造教育玩具「われないシャボン玉」

D 委員：事業目的と事業内容の関連性が不明。計画性にも欠ける。

B 委員：同意。障害者支援、子供の教育、これらの目的にこのシャボン玉がどう関わるのか十分に理解できない。

委員長：事業目的と事業内容の関連性、また、計画性に疑問があるため不採択とします。

B-新-6 若者およびその保護者を対象とする就職活動塾の開催

D 委員：市やハローワーク等が就労支援の各事業を実施している中で、改めてこの事業に対して補助金を交付する必要性を感じられない。

B 委員：同意。同じく、必要性を感じられない。

委員長：現状、市やハローワーク等で就労支援事業が実施されており、本事業に対して改めて補助金を交付する必要性を感じられないため、不採択とします。

B-新-8 高齢者の人生の聴き取りライター養成講座

E 委員：プライバシーに関わる部分。ボランティアと依頼者の個人的信頼関係に委ねるべきでは。補助金を出すことには抵抗を感じる。

A 委員：高齢者から依頼があったわけではないとの事。

B 委員：法人の主旨に沿った活動ではないのでは。

D 委員：なにより、成年後見制度や市民後見人についての啓発という目的達成のためにふさわしい事業とは思えない。関連性が希薄。

委員長：成年後見制度や市民後見人についての啓発という目的達成のための手段としては他に、よりふさわしい手段があると考えられるため不採択とします。

B-新-3 浅川の美化づくりと活用による八王子の街おこし活動事業

D 委員：計画性が欠如している。事業内容も不明瞭。

B 委員：それに尽きる。桜の植樹についても、単に植樹する、とあるのみで行政との調整や維持管理について具体的に触れられていない。

委員長：計画性に欠けること、事業内容が不明瞭な事から不採択とします。

	事業実施部門	審査結果
	採択：12事業	不採択：7事業
【採択】	B-新-1、B-新-5、B-新-7、B-新-9、B-	-1、B- -2、B- -3、B- -4、 B- -5、B- -6、B- -1、B- -2